

第26回診療ガイドライン作成に関する意見交換会
「ICT×診療ガイドラインー利便性の高い診療ガイドラインの作成と活用に向けてー」

Minds事業の現況と展望

2024年2月17日

公益財団法人 日本医療機能評価機構

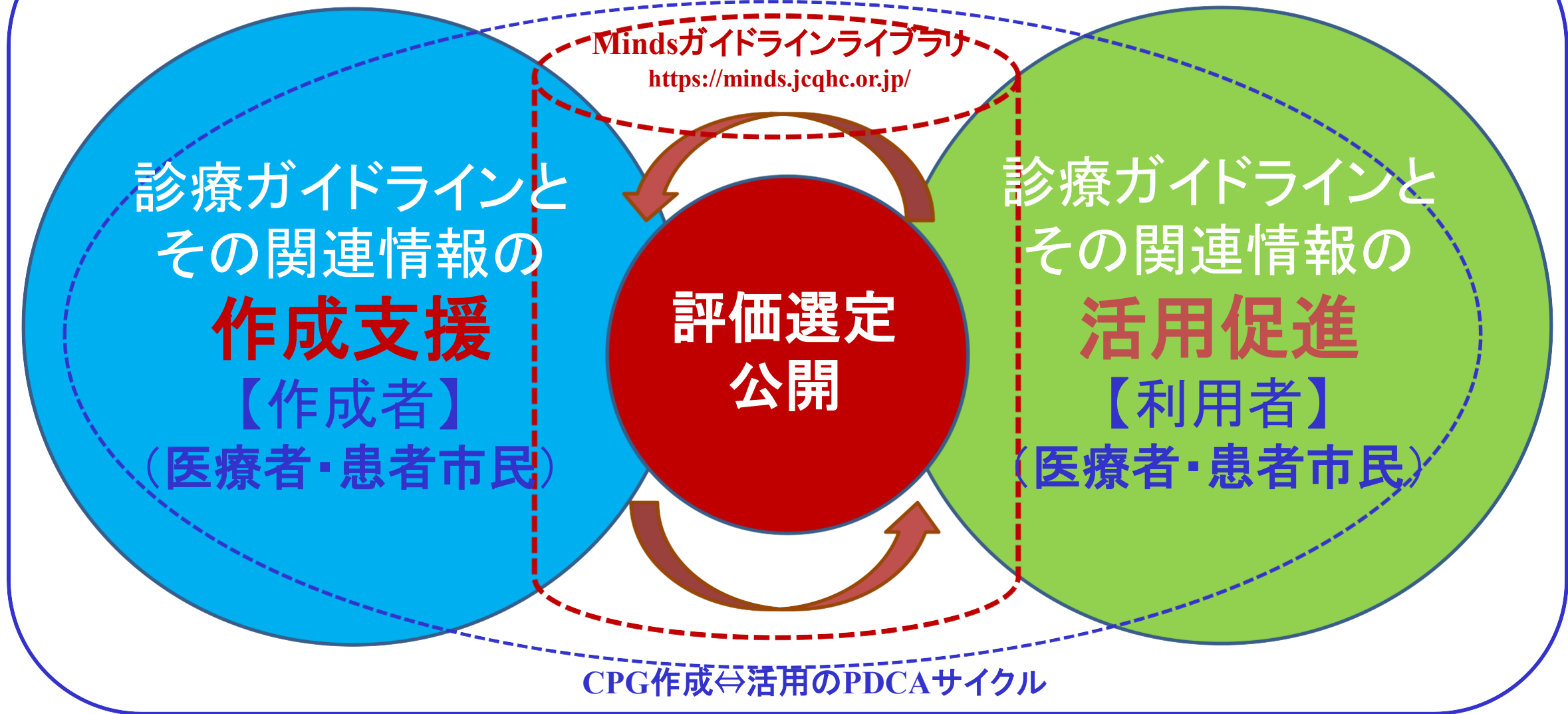
EBM医療情報部

奥村 晃子

EBM普及推進事業(Minds)の経緯

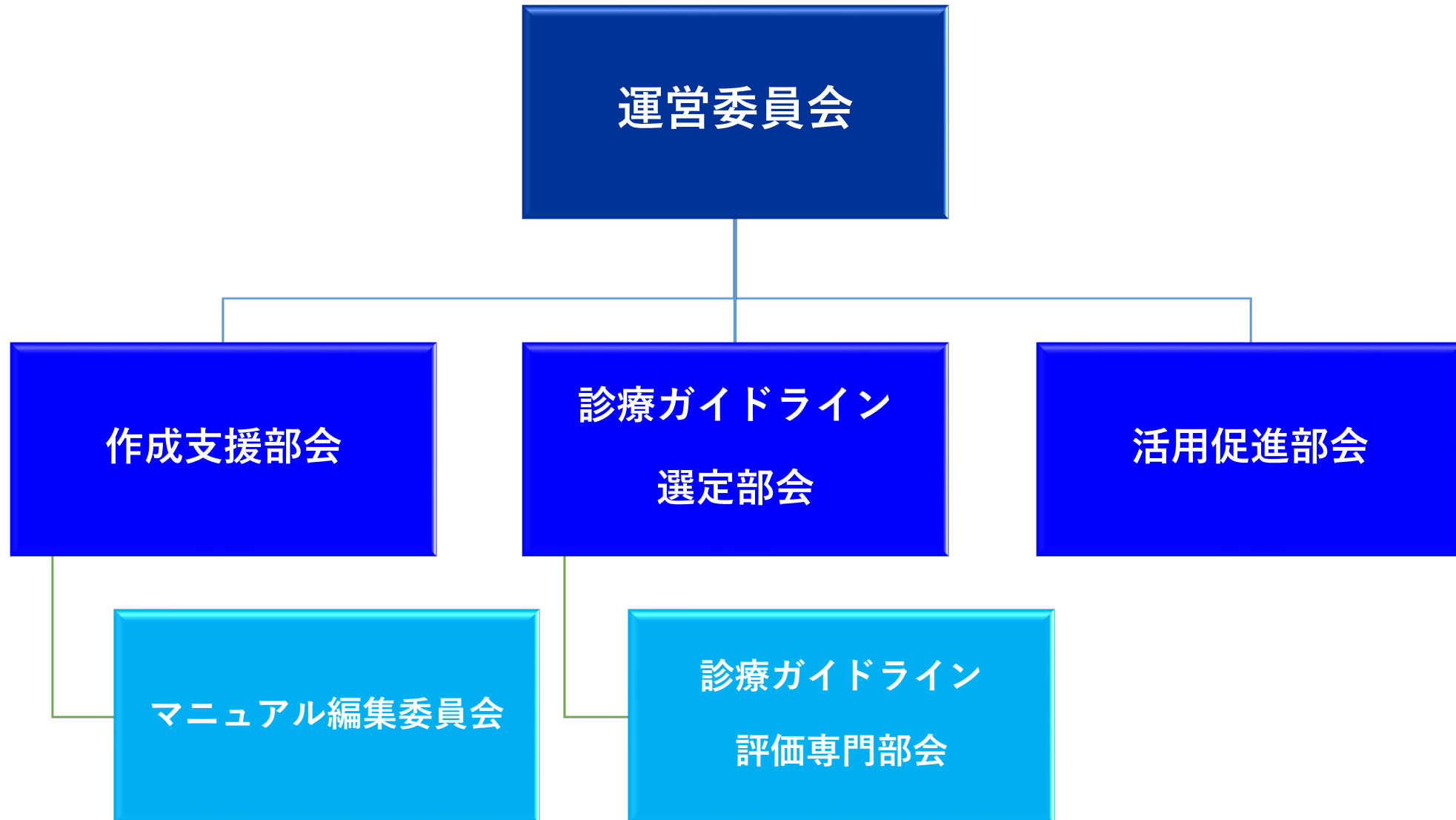


EBM普及推進事業(Minds)

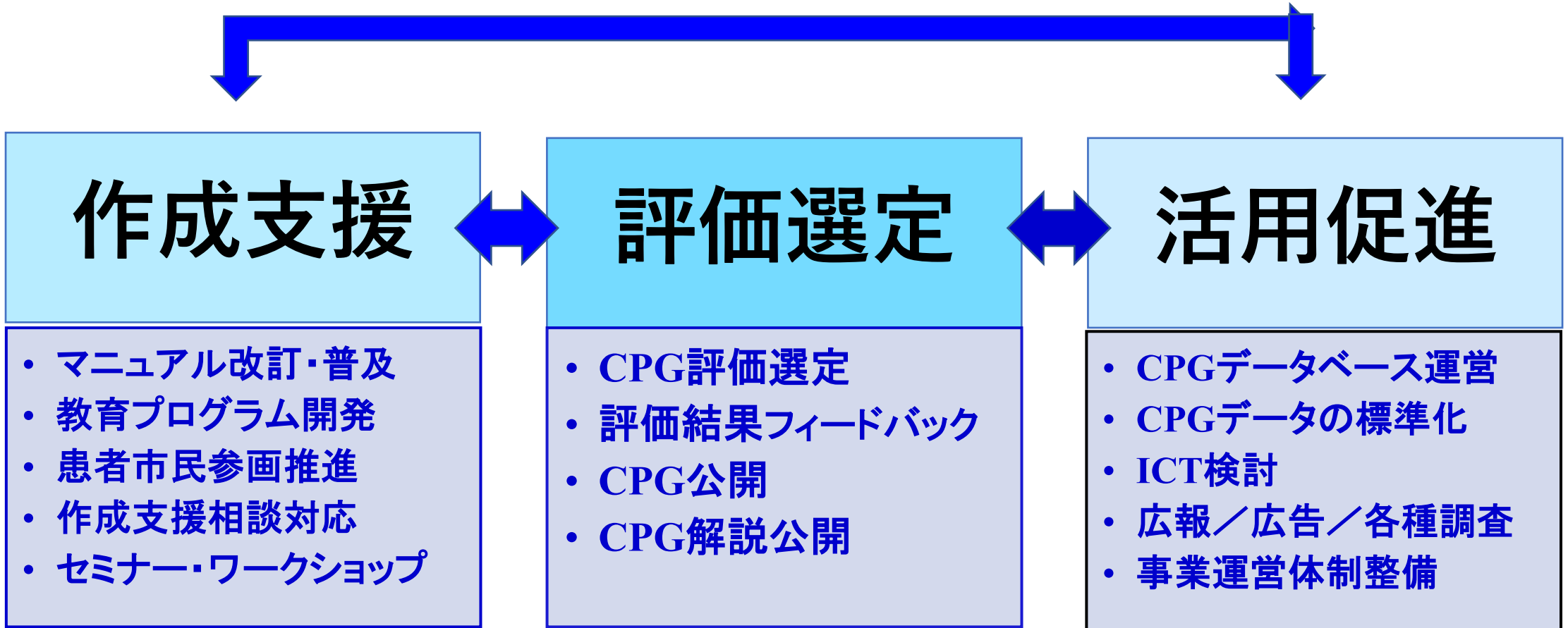


信頼できる診療ガイドラインを中心とした医療情報提供を通して、患者と医療者の意思決定を支援し、
医療の質の向上に寄与する

2023年度 Minds事業実施体制



2023年度事業内容



AMEDとの事業連携
【2023~2025年度予定】

診療ガイドライン作成支援事業

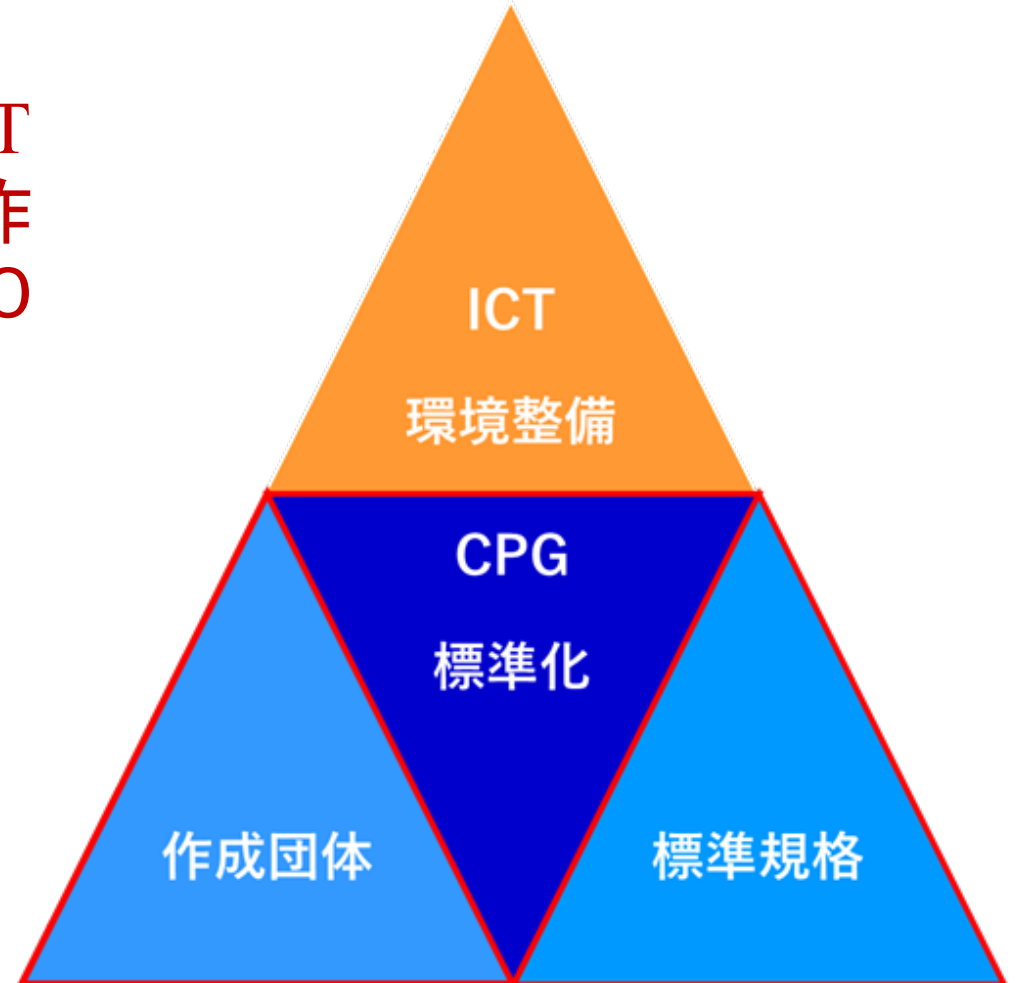
- CPG作成マニュアル・手引きの作成・改訂【2006～】
- CPG作成に関する意見交換会【2006～】
- CPG作成ワークショップ・セミナー【2012～】
- CPG作成総合相談窓口（メール相談他）【2017～】
- CPG公開前評価【2018～】
- Minds Tokyo GRADE Center【2019～】
- 教育プログラム検討・開発【2021～】



新課題：診療ガイドラインを参照できる電子カルテの調査研究

- 2020～2021年度に実施した厚生労働科学研究「横断的課題に広く対応し医療ICT基盤上で活用される診療ガイドラインの作成・編集・導入を推進するための研究(20IA1012)」で得られた成果をベース
- 事業化を見据えた調査・検討を実施

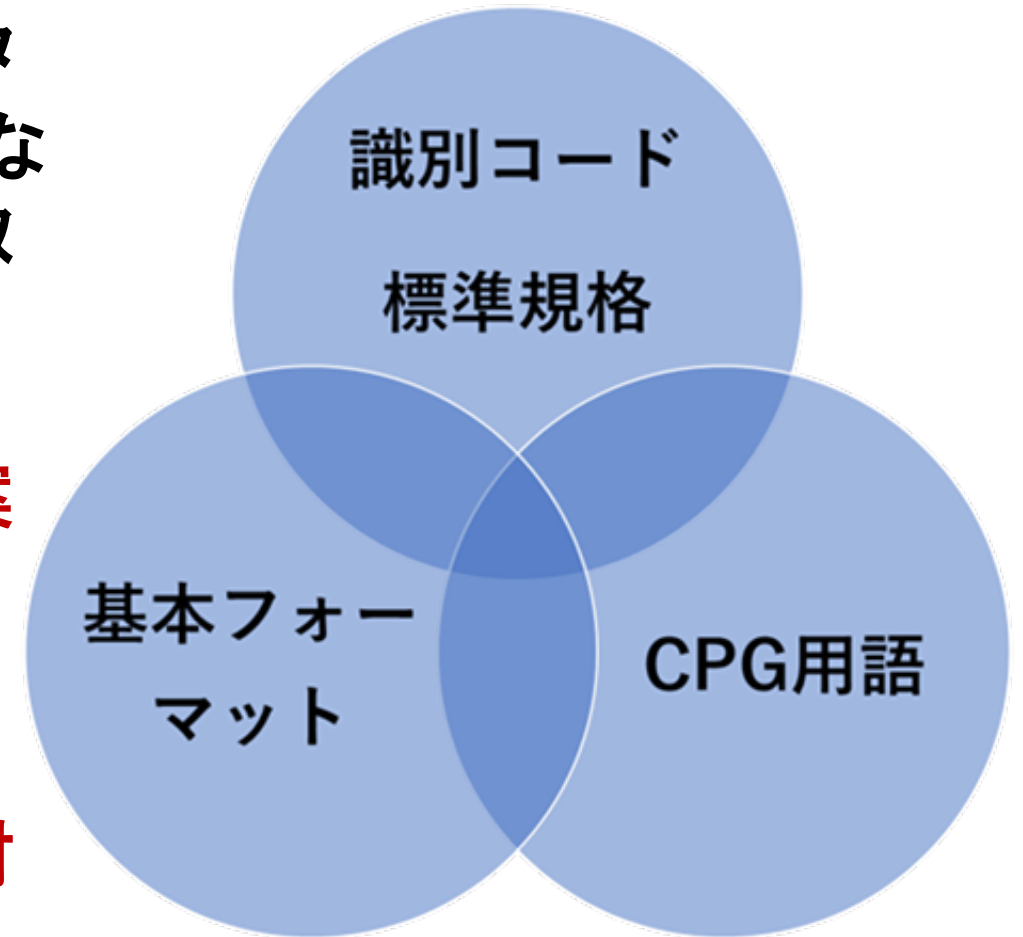
1. 診療ガイドラインデータの標準化
2. ICT環境の整備・調整



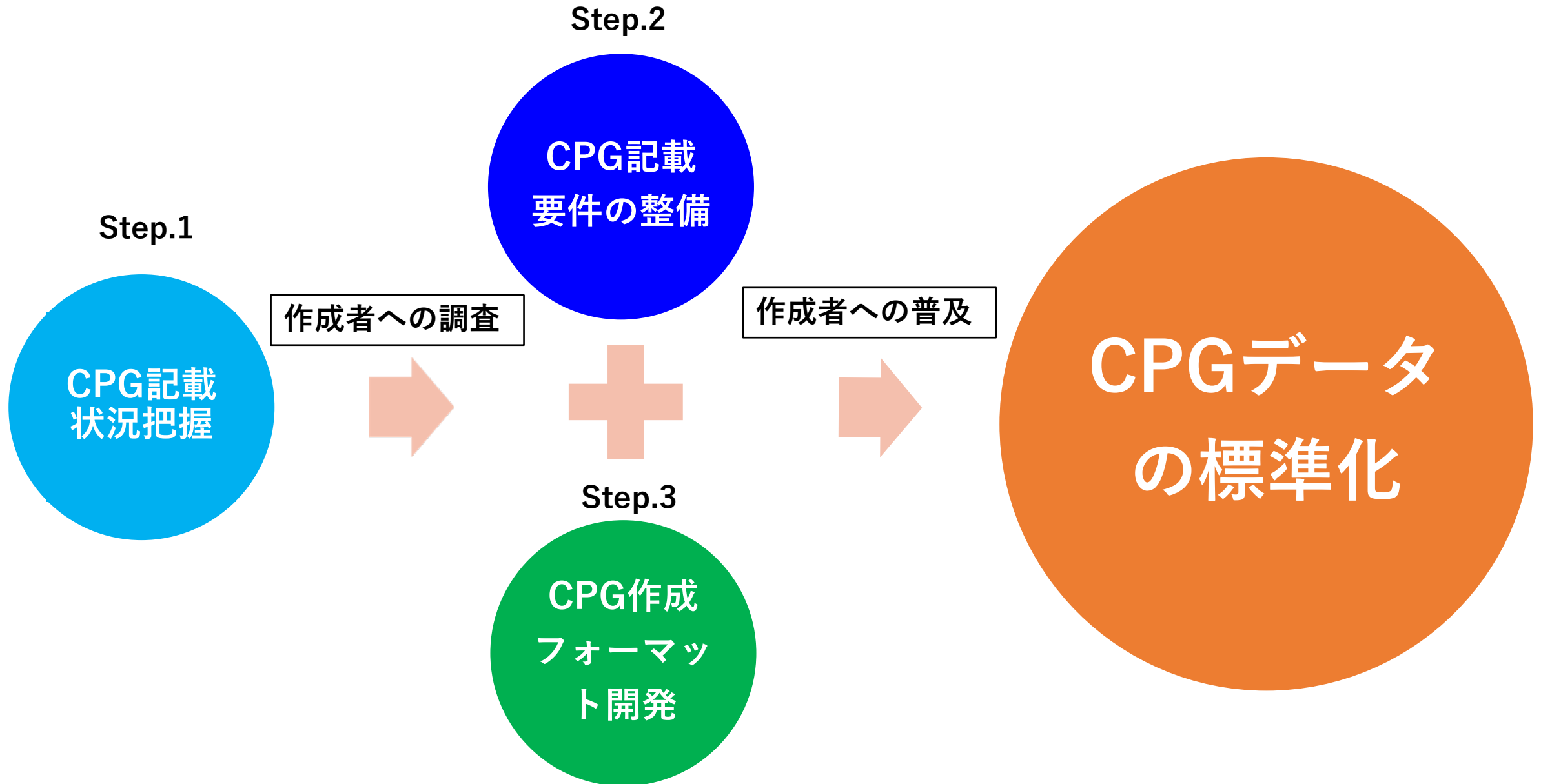
診療ガイドラインデータの標準化について

・ 診療ガイドラインが動的な医療情報データとして医療情報システムへの導入が可能になるように、CPGの標準化に向けて、以下に取り組む。

- (1) CPG作成の基本フォーマットの提案
- (2) CPG内で用いられる用語整備
- (3) 新たなCPGの分類・識別方法の検討



診療ガイドラインデータの標準化の手順



Minds 意見交換会 事前アンケート概要

【アンケート実施方法】

各学会・団体に意見交換会開催をメールでご案内をする際に、参加に関わらずご協力を依頼。回答者は原則ガイドライン作成委員長とし、各学会・団体からの連携をご依頼した。

【送付先】

360-370の作成学会・団体

【アンケート実施日程】

2024年1月25日－2月6日 (09:00時点)

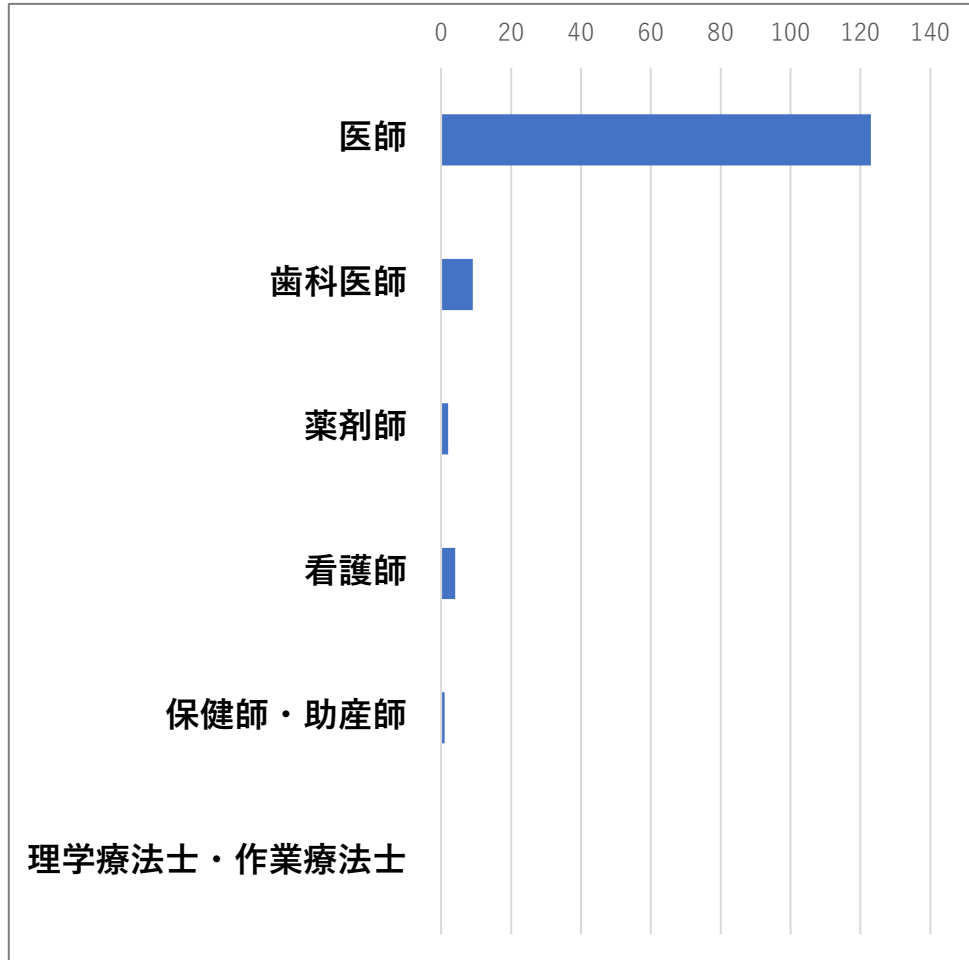
【回答者数】 130人

【調査実施】

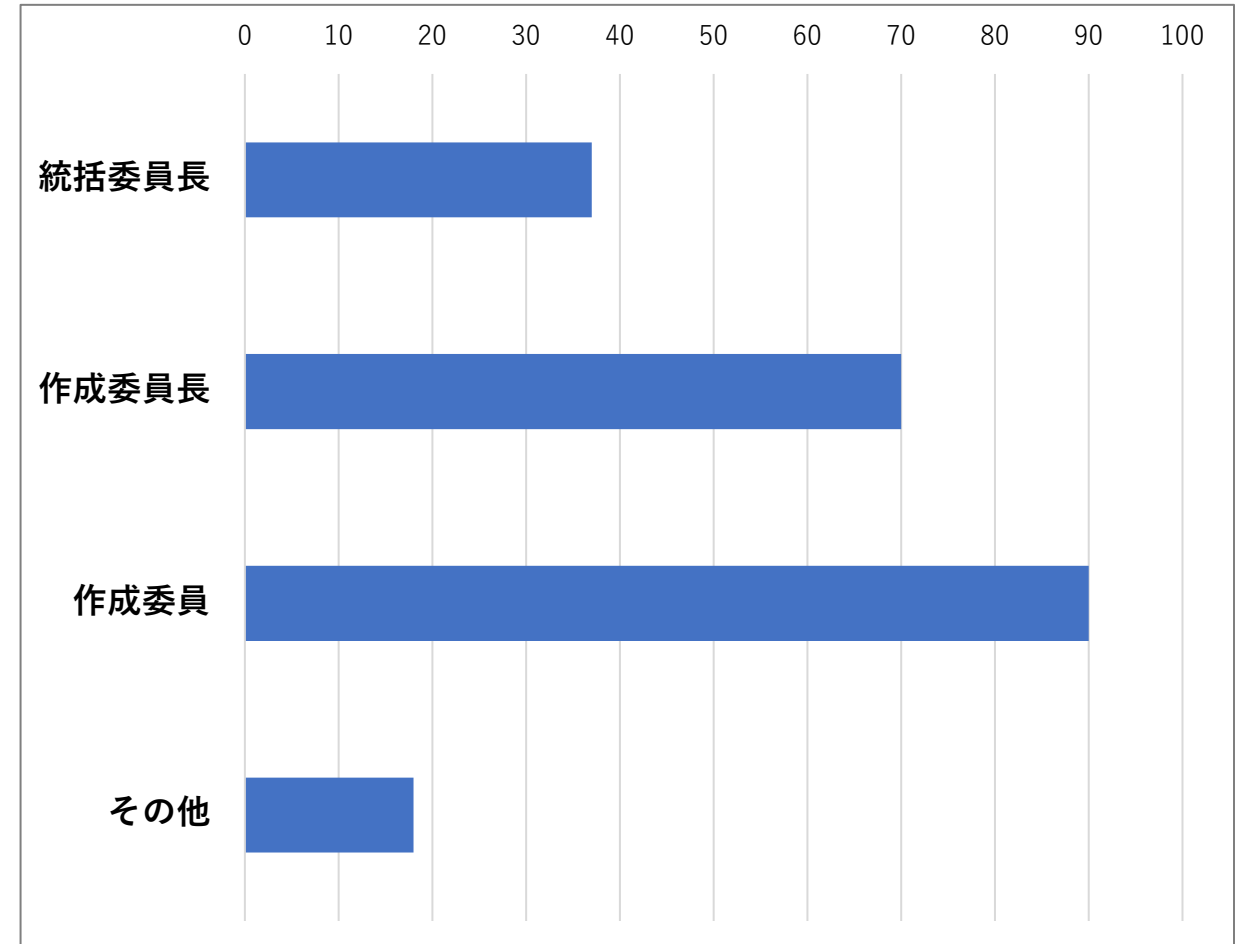
日本医療機能評価機構 EBM医療情報部 (Minds事務局)

回答者属性

職種（人）

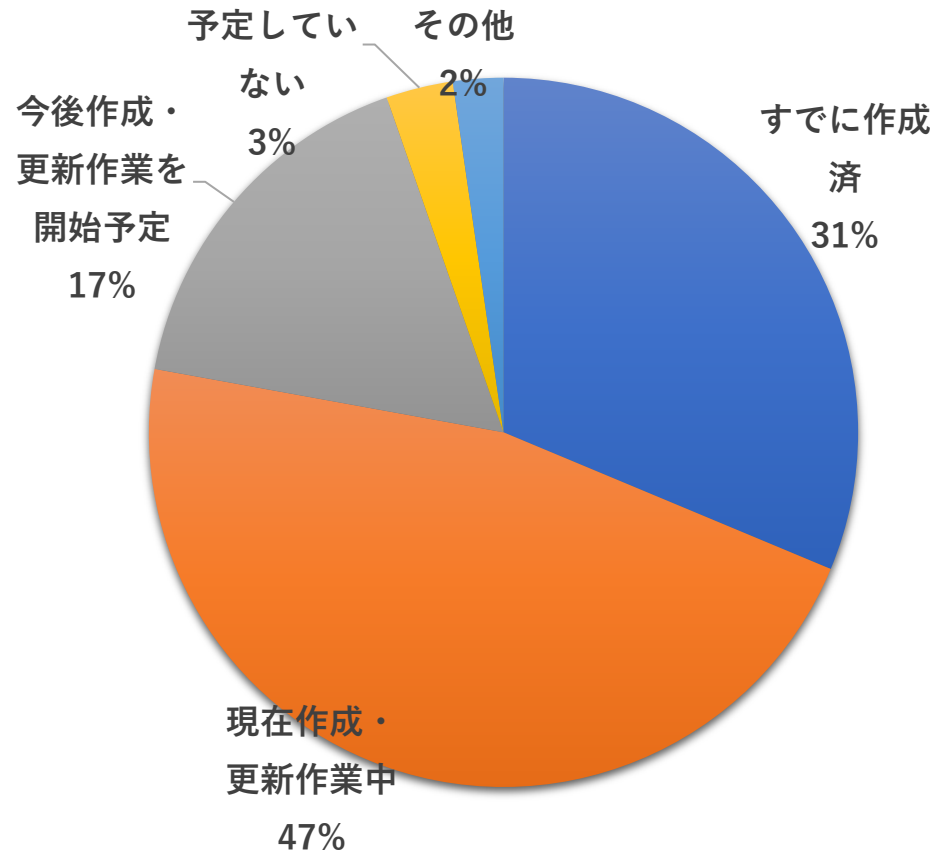


作成における役割（人） 複数回答

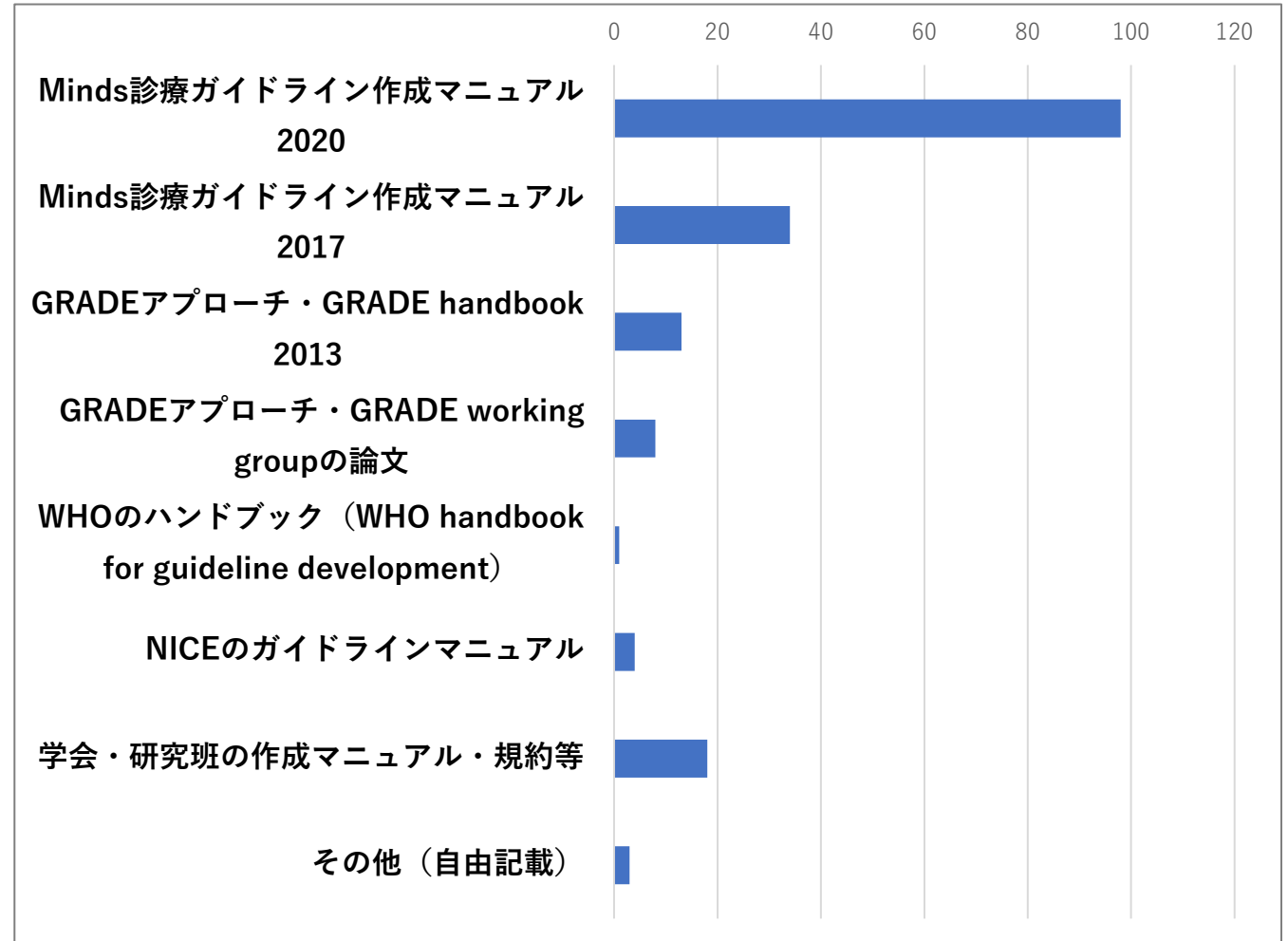


作成の現況

ガイドライン作成状況（人）



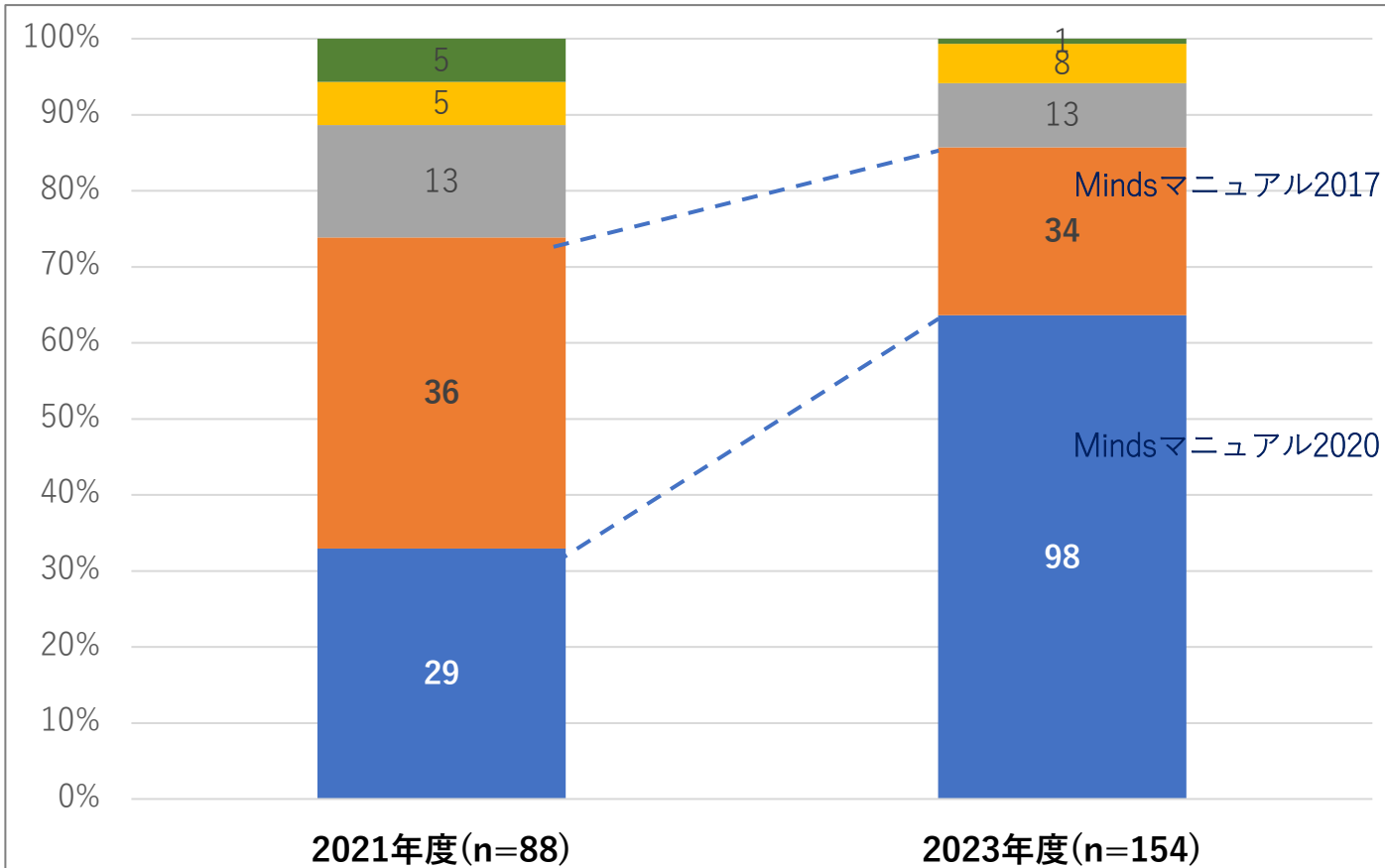
作成方法（人）複数回答



作成方法

複数回答

2023年度の傾向（2021年度比）



「Mindsマニュアル2017」の利用割合は減少
(41%→21%)

「Mindsマニュアル2020」の利用割合が増加
(33→64%)

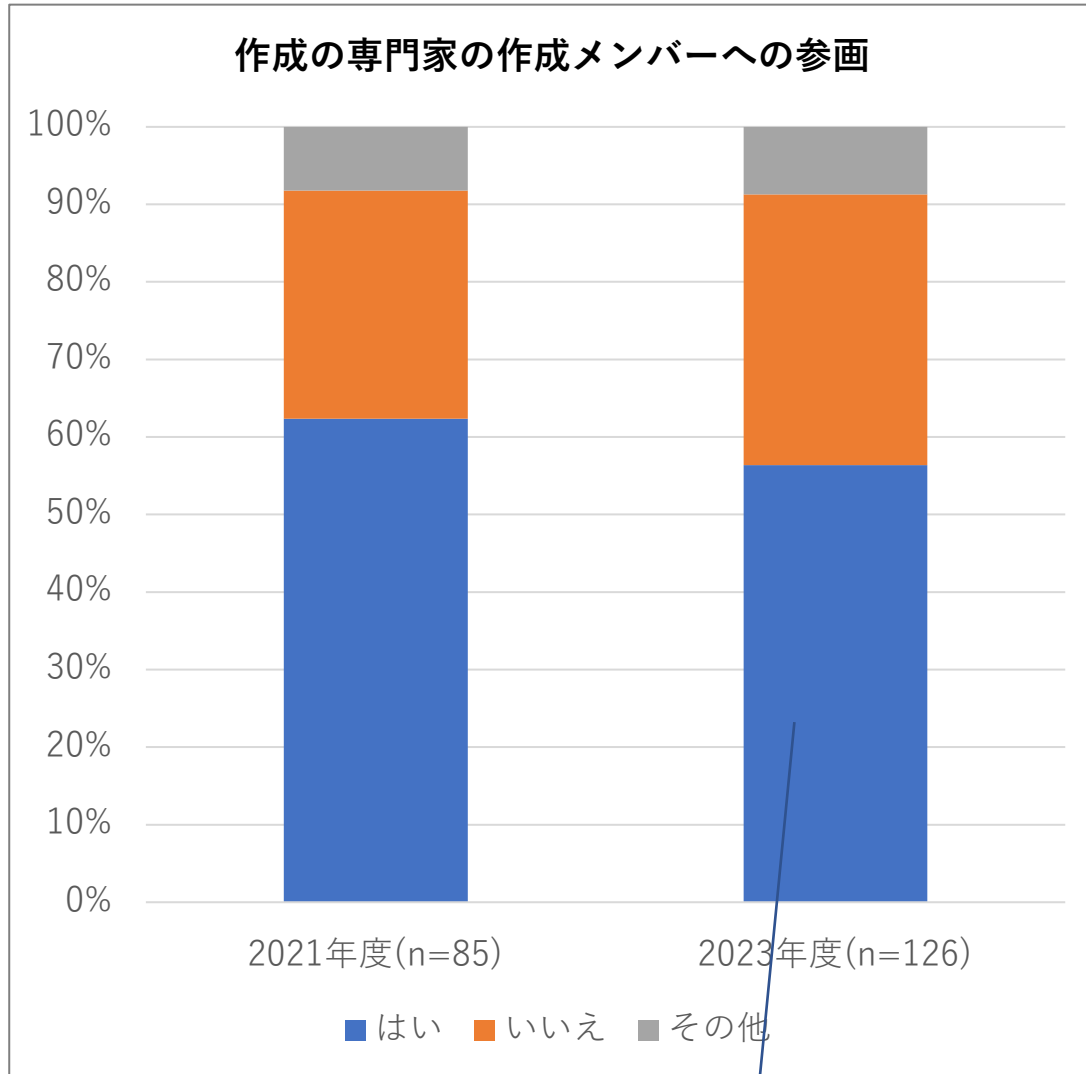
全体に「Mindsマニュアル」の利用割合が増加
(71→85%)

- WHOのハンドブック (WHO handbook for guideline development)
- GRADEアプローチ・GRADE working groupの論文
- GRADEアプローチ・GRADE handbook 2013
- Minds診療ガイドライン作成マニュアル2017
- Minds診療ガイドライン作成マニュアル2020

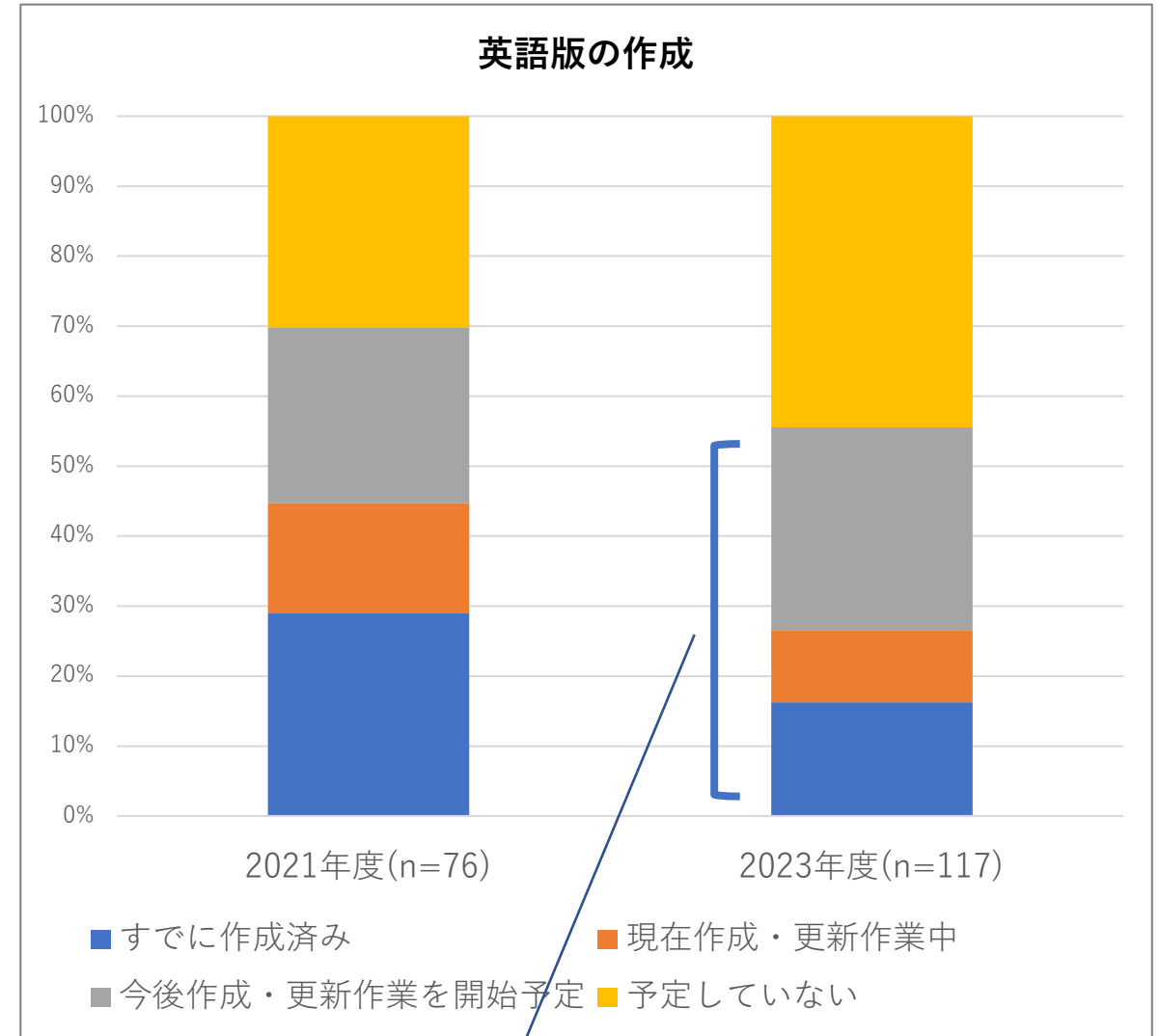
※主要な5つの方法に絞った回答を抽出
・ Minds作成マニュアル2020
・ Minds作成マニュアル2017
・ GRADE handbook 2013
・ GRADE working groupの論文
・ WHOハンドブック

作成方法など

2023年度の傾向（2021年度比）



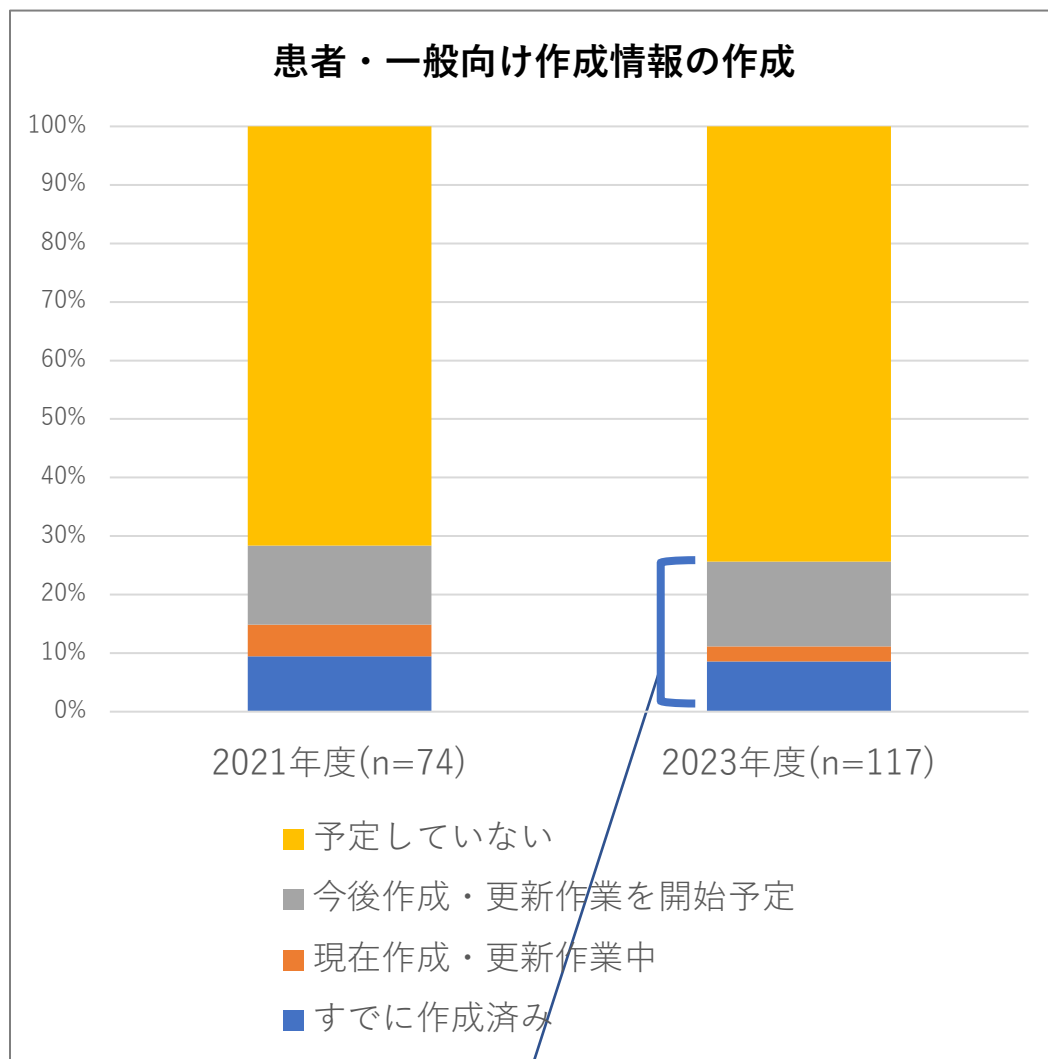
「作成の専門家の参画」の割合はやや減少（62%→56%）



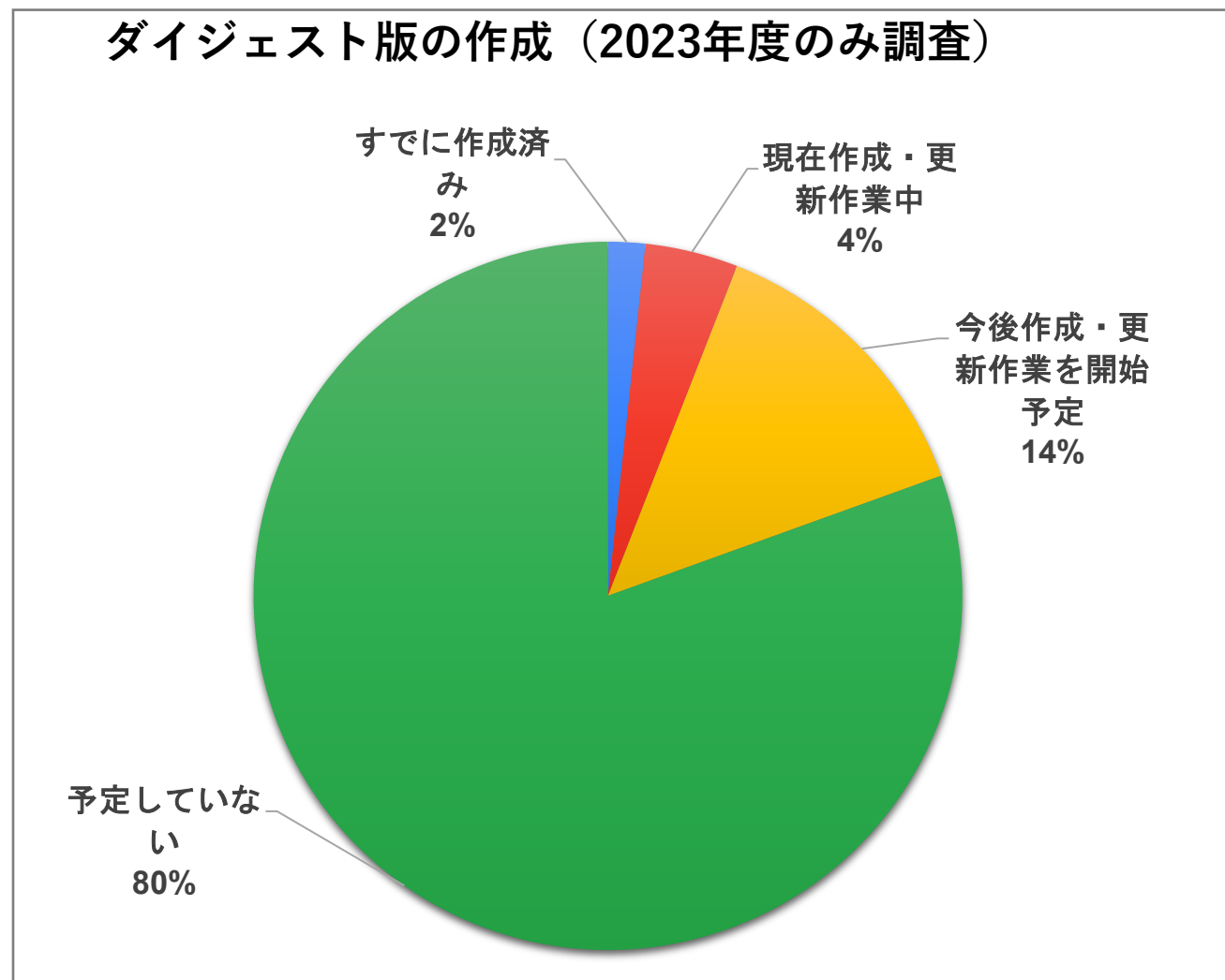
「作成済み」「現在・今後作成」の割合は減少（70%→55%）

作成方法など

2023年度の傾向（2021年度比）



「患者・一般向け情報を作成済み」「現在・今後作成」の割合は横ばい（28%→27%）

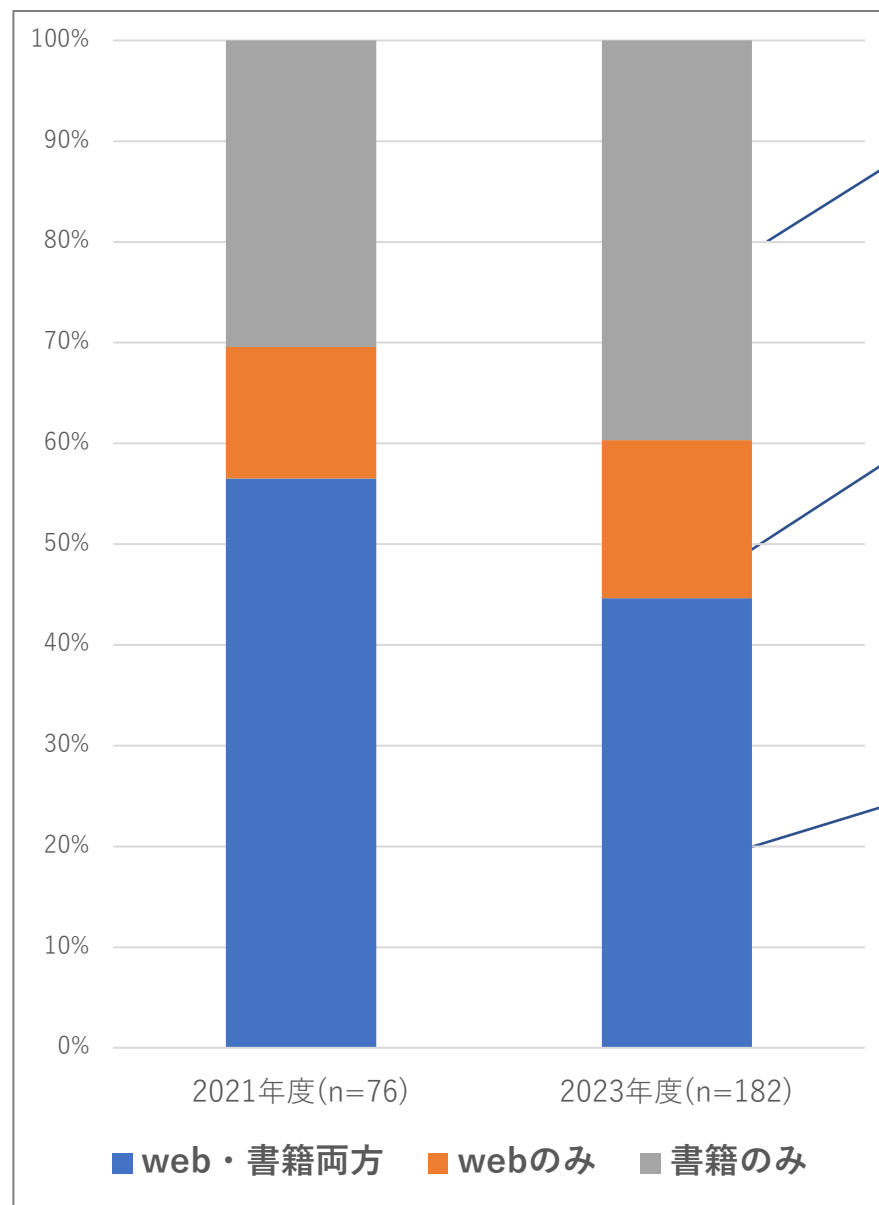
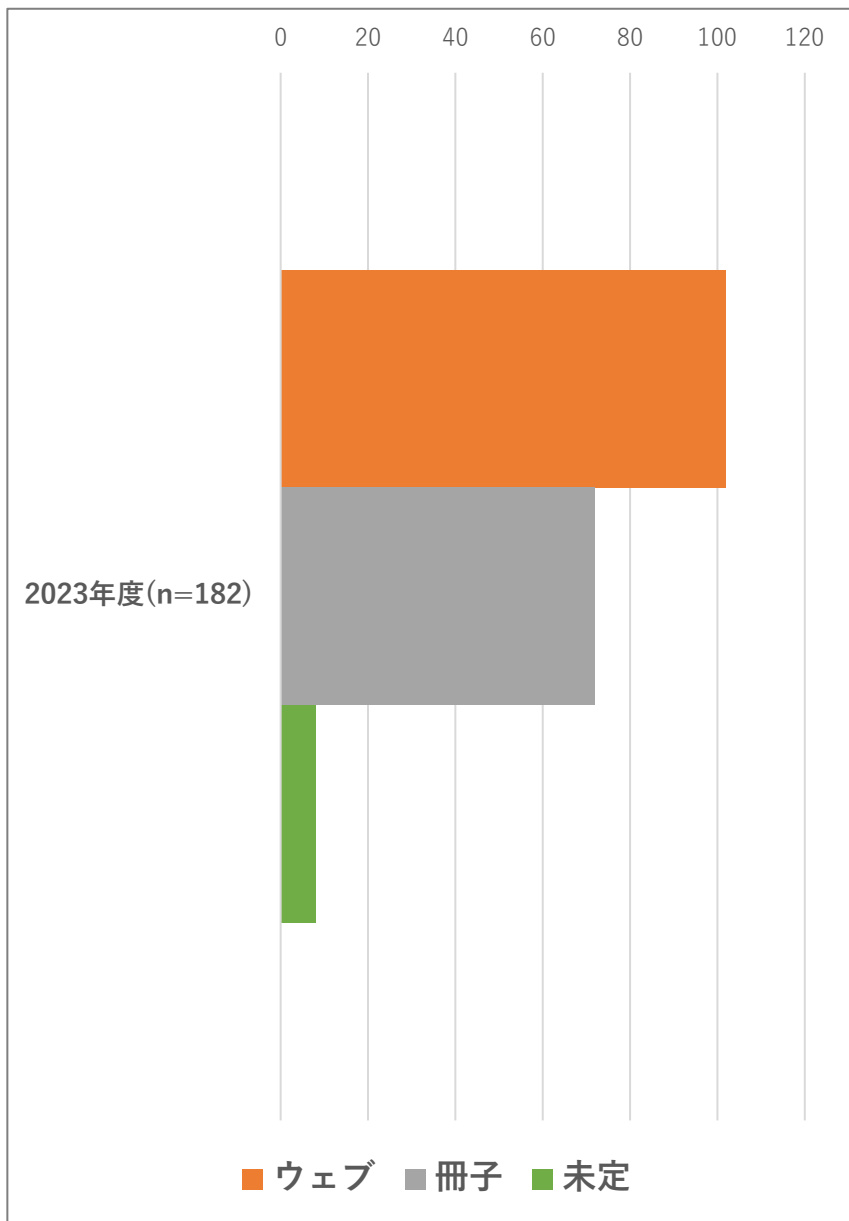


「作成済み」「現在・今後作成」の割合は合計約20%

公開方法

複数回答

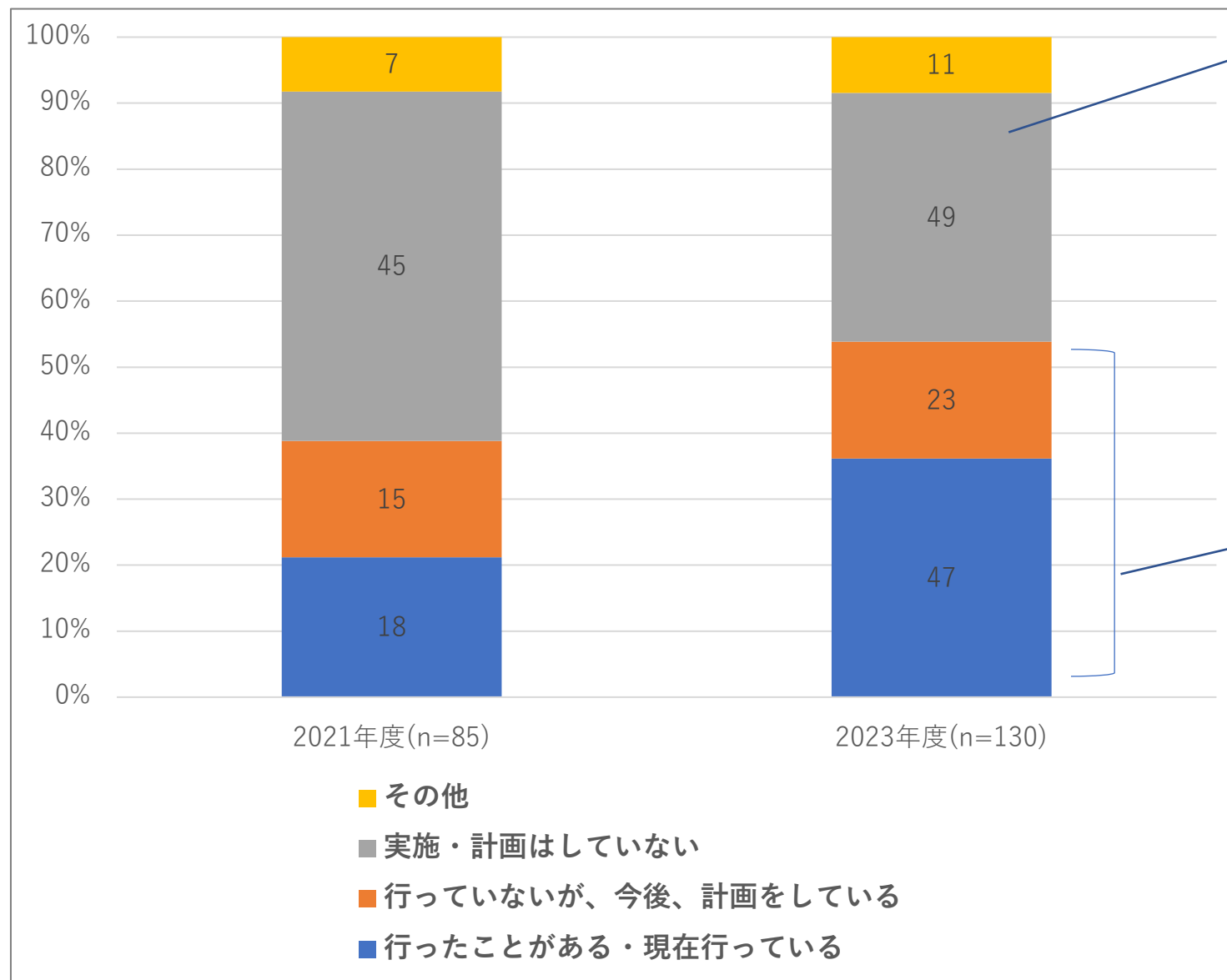
2023年度の傾向（2021年度比）



「書籍のみ」の割合は増加
(30%→40%)

「Webのみ」の割合は
ほぼ横ばい
(13% → 16%)

「Web・書籍両方」の割合は
減少
(57% → 45%)



「実施・計画はしていない」の割合は減少（53% → 38%）

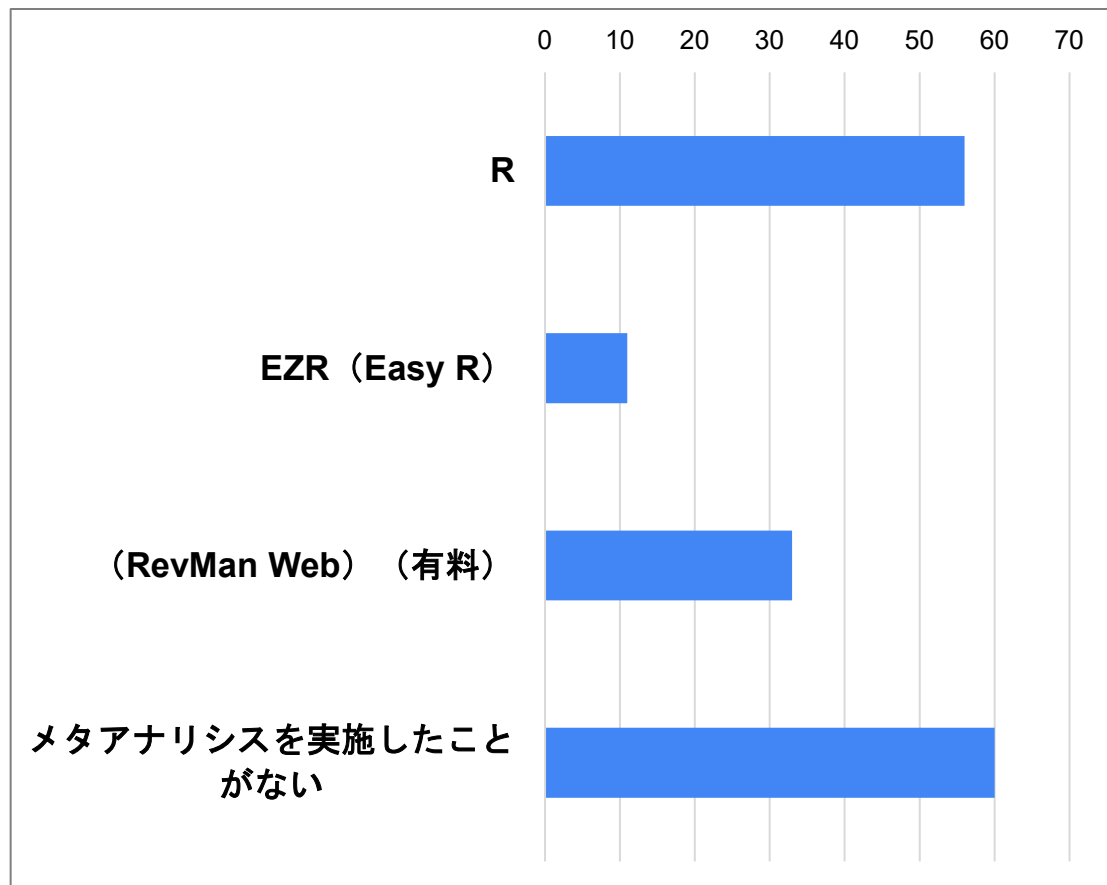
「実施していない」理由：
・実施可能性を含めまだ検討中（3件）
・検討したが、当該疾患を代表する患者・保護者の選定が難しいと考えた。かわりに看護職が加入し代弁者の役割を担った。

「行っている」「今後計画をしている」を合算した割合は増加（40% → 54%）

作成方法 SRについて

定量的なSR実施時の利用ソフト・ツール（人）

複数回答



SRの課題・工夫（自由記述）

体制に関すること(4件)

- 実施できるメンバーが限られている
- 専門家に参画を依頼
- SRチーム間での作業手順を統一

作業負担に関すること (5件)

- 不慣れな臨床研究医にとっては「過剰」の言葉で表現しきれないほど負担が大きい
- CQ数が多いので、全てに行えない
- 労力面から若手中心にチームを編成

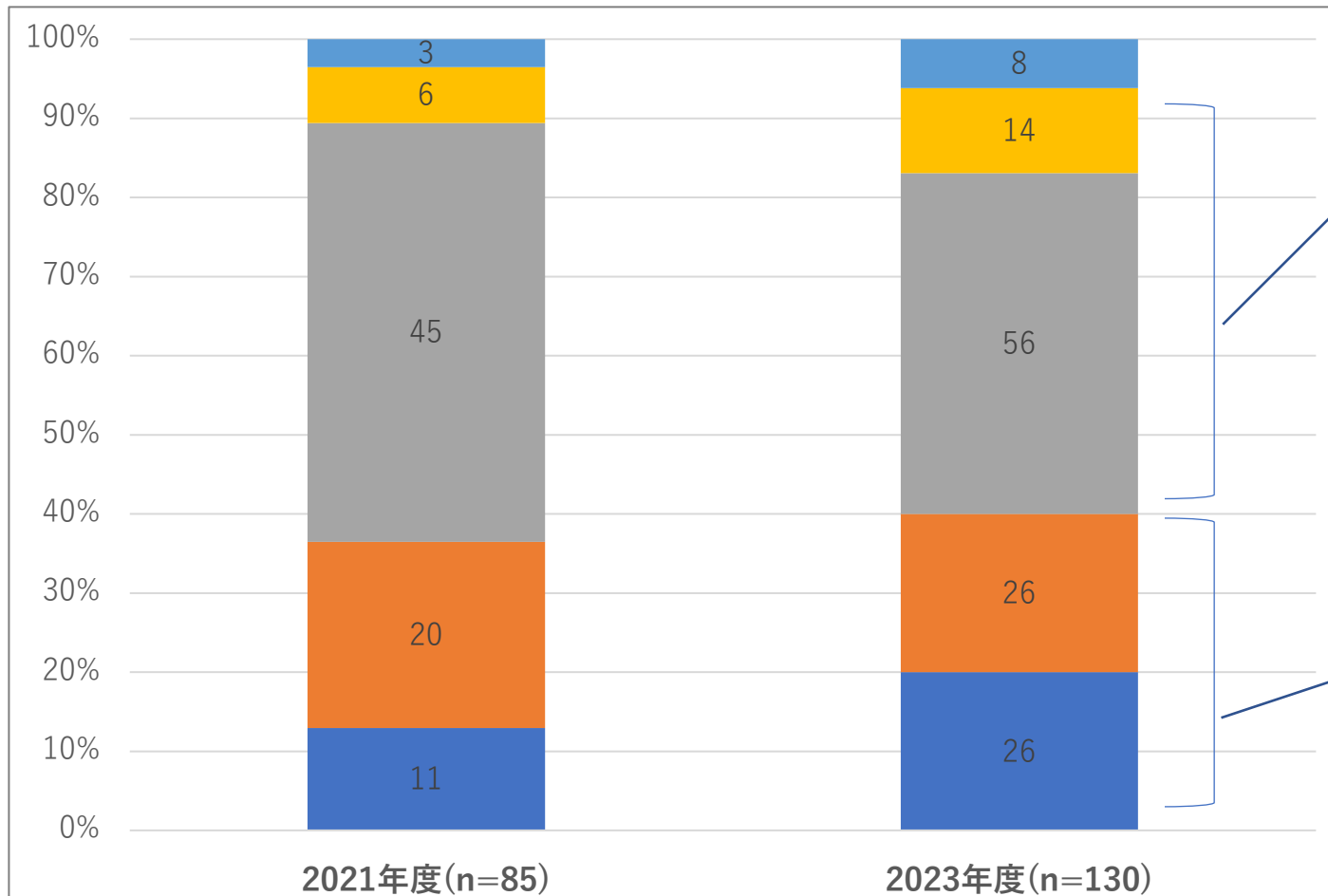
エビデンスの有無に関すること (5件)

- 定量的SRを行うにたる背景因子の揃ったRCTがない
- エビデンスが乏しい場合、どこまで関連データ（観察研究のみなど）を調べるか判断が難しい

実施手法に関すること (4件)

- 収集漏れの問題への対応をどうするか
- Mindsの動画で勉強

EtDフレームワークの使用 複数回答 2023年度の傾向（2021年度比）



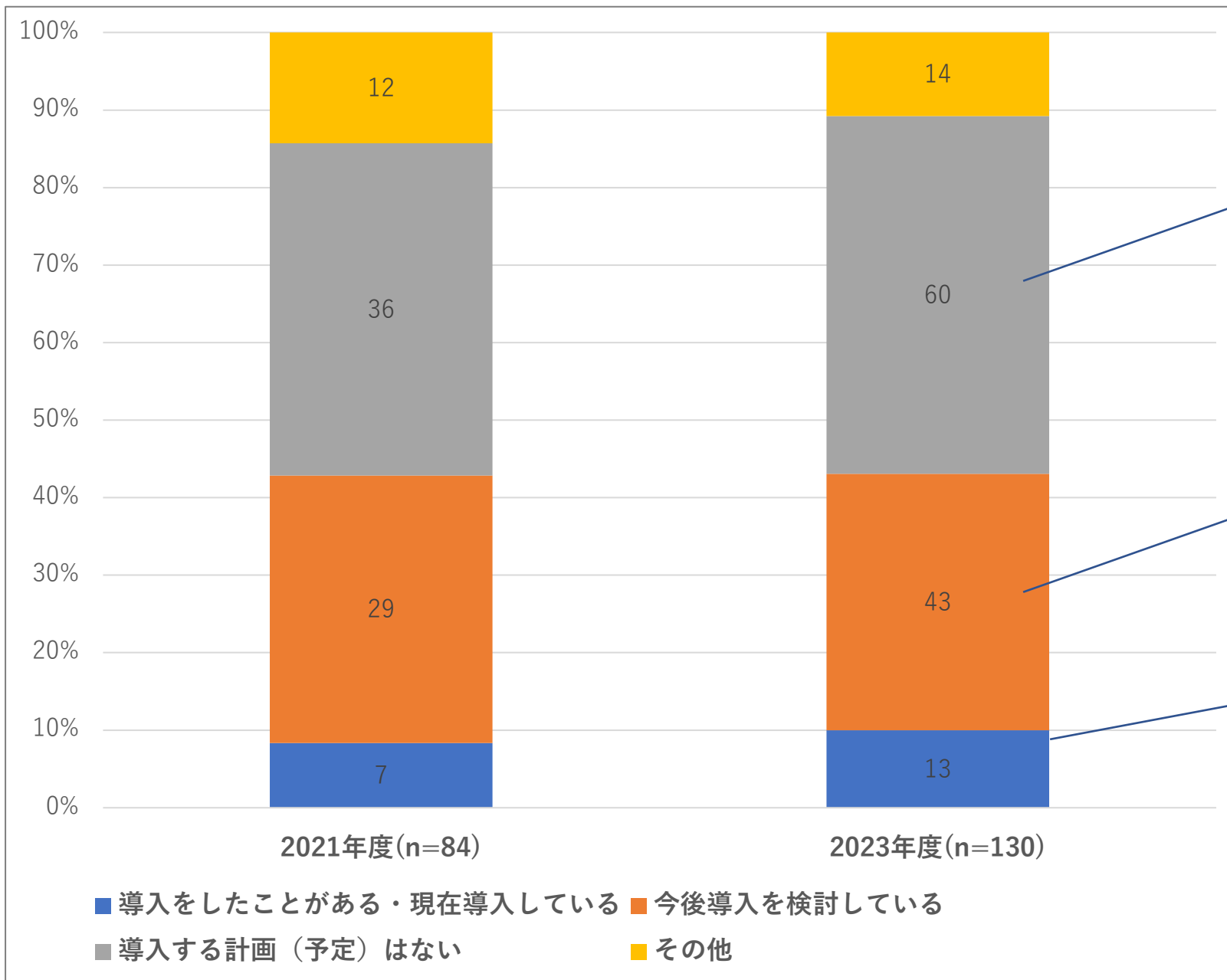
「使用していない」「使用の予定はない」を合算した割合はほぼ横ばい（60% → 54%）

「使用している」「今後使用をしている」を合算した割合はほぼ横ばい（36% → 40%）

- その他（自由記載）
- 使用する予定はない
- 使用していない
- 今後使用を検討している
- 使用したことがある・現在使用している

医療経済評価の導入 複数回答

2023年度の傾向（2021年度比）

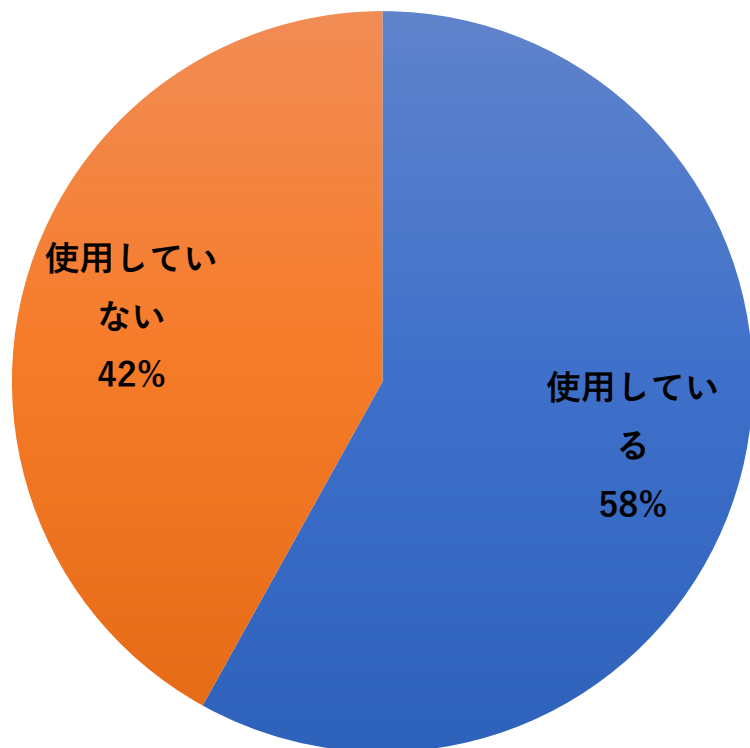


「導入の計画はない」の割合は
ほぼ横ばい（43%→46%）

「今後計画している」の割合は
ほぼ横ばい（35%→33%）

「導入している」の割合は
ほぼ横ばい（8%→10%）

Mindsテンプレート使用状況（人）



n=130

使用感や課題（自由記述）

●よい・使用しやすい(11件)

- ・便利
- ・必要項目が備わっている
- ・課題が明確化される

●難しい・使いにくい

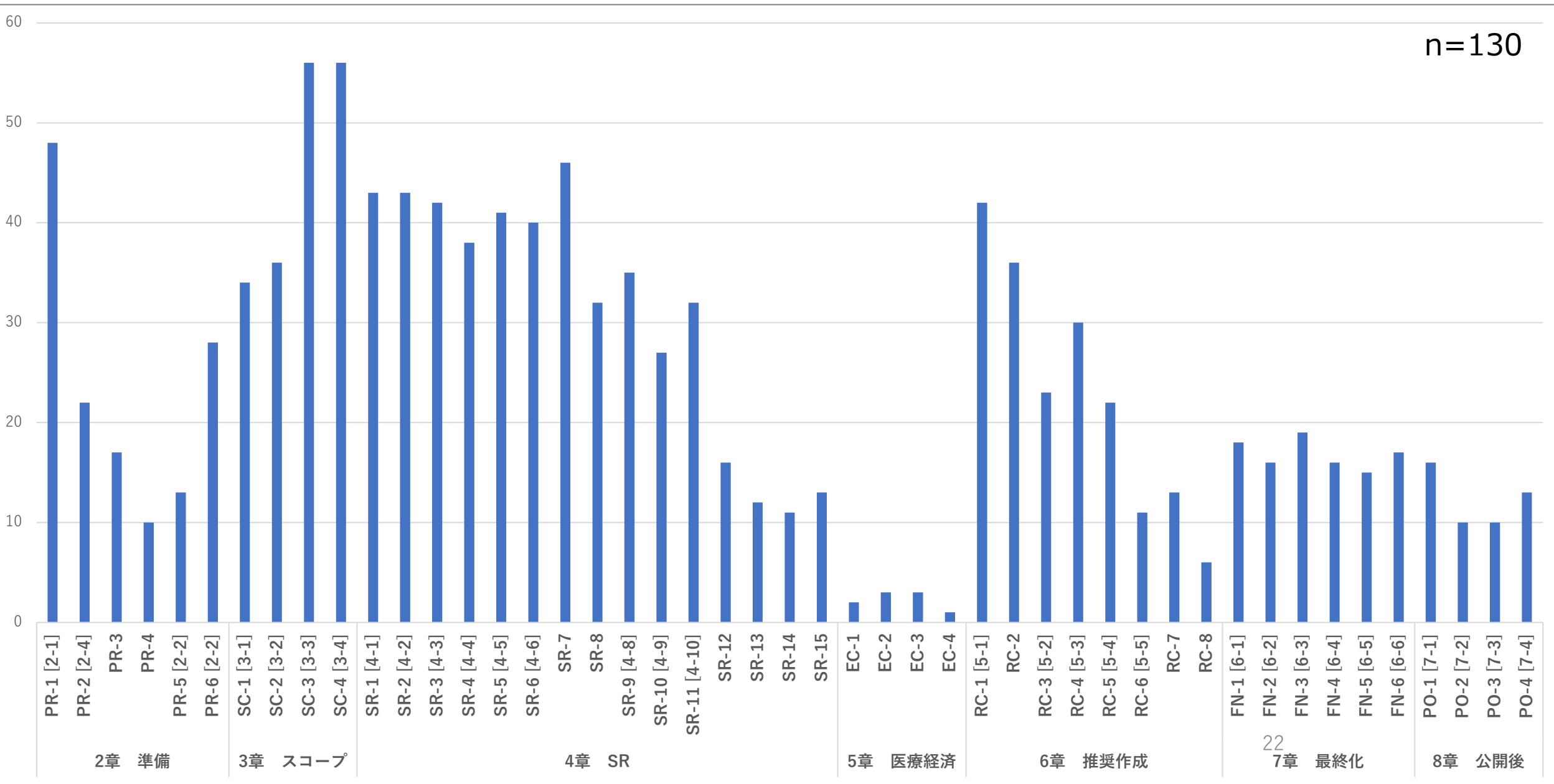
- ・作成手順が難解
- ・ワークシートのタブが横並びで使いにくい。
- ・きっちり当てはまらない場合にどのように記載すべきか悩む。

●提案・要望

- ・記載例を豊富に用意してほしい
- ・「最低限必要なもの」・「できればある方がいいもの」など区別をつけてほしい

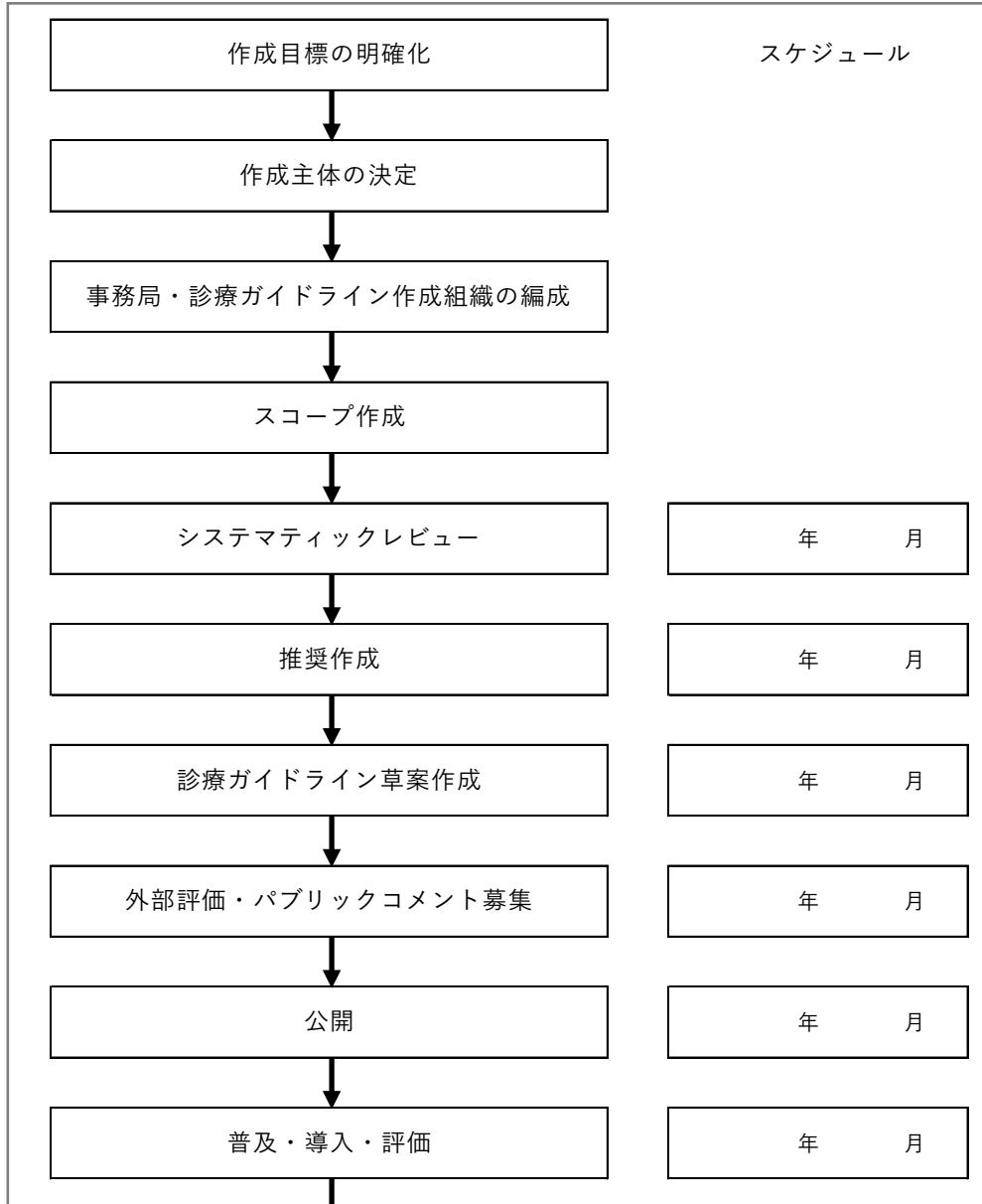
Mindsテンプレート使用状況 章・テンプレート別（人） 複数回答

n=130



Mindsテンプレート 利用者数が多かった上位

2章 PR-1 作成手順/スケジュール (使用あり：48人)

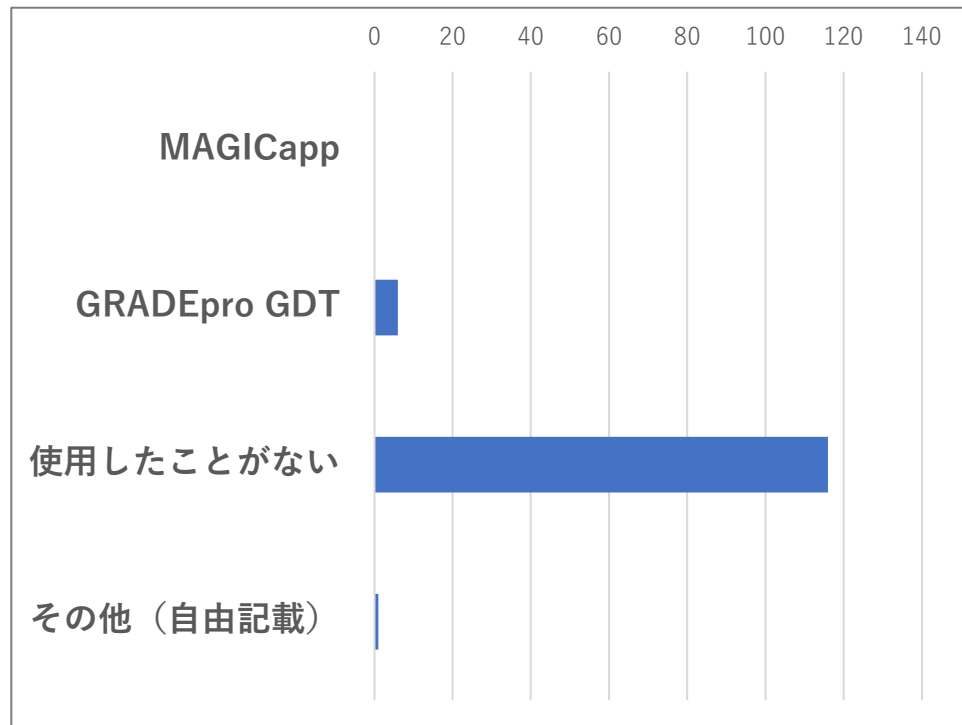


3章 SC-3 スコープ (使用あり：56人)

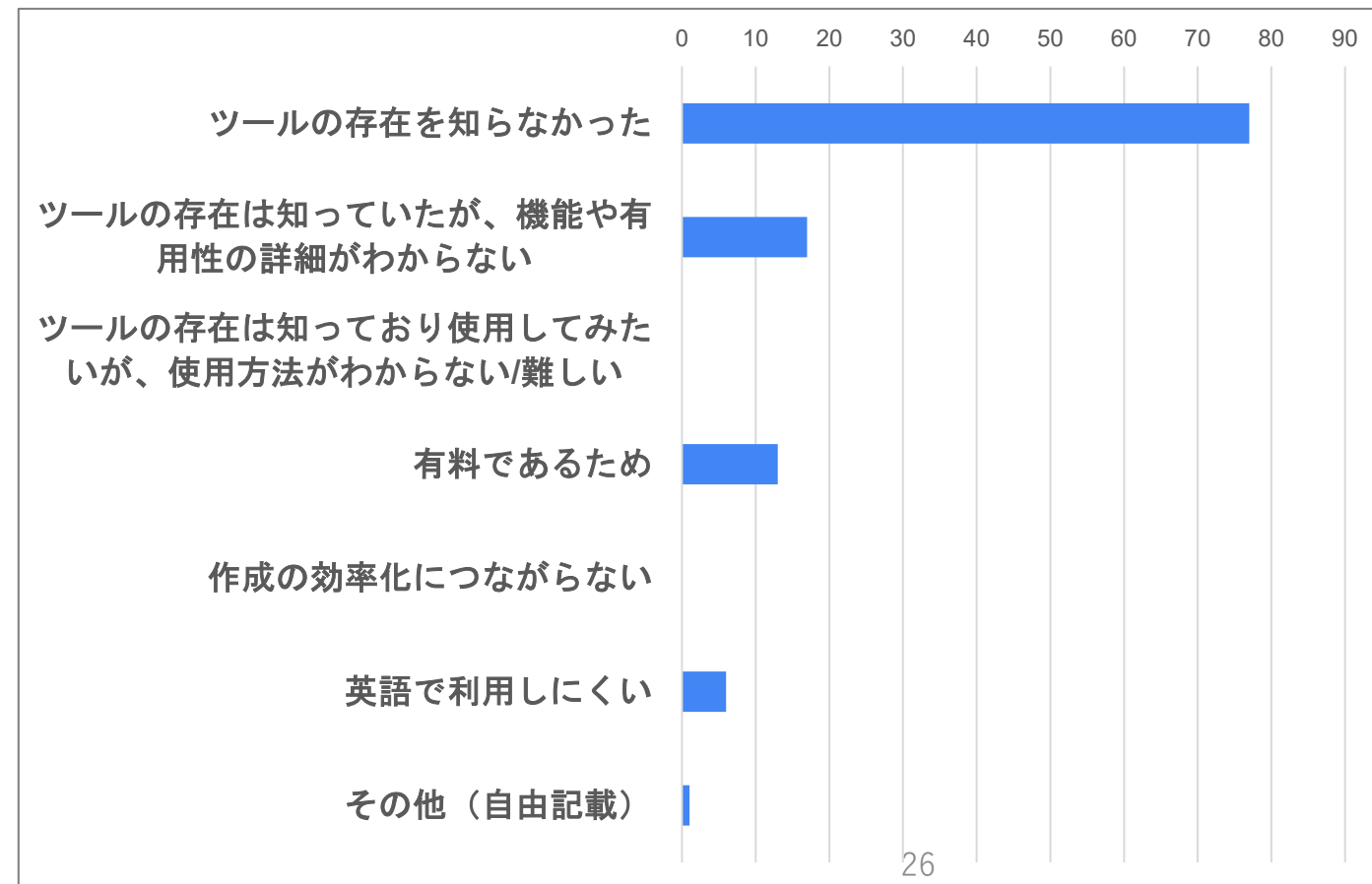
バージョン：		
作成日：		
作成者：		
1. 診療ガイドラインがカバーする内容に関する事項		
(1) タイトル		
(2) 目的		
(3) トピック		
(4) 診療ガイドラインがカバーする視点		
(5) 想定される利用者, 利用施設		
(6) 既存の診療ガイドラインとの関係		
(7) 診療ガイドラインがカバーする範囲		
(8) 重要臨床課題	重要臨床課題1：	
	重要臨床課題2：	
	重要臨床課題3：	23

診療ガイドライン作成・更新・普及に関する電子的なツールについて

電子的な作成支援ツールの 使用経験（人） 複数回答

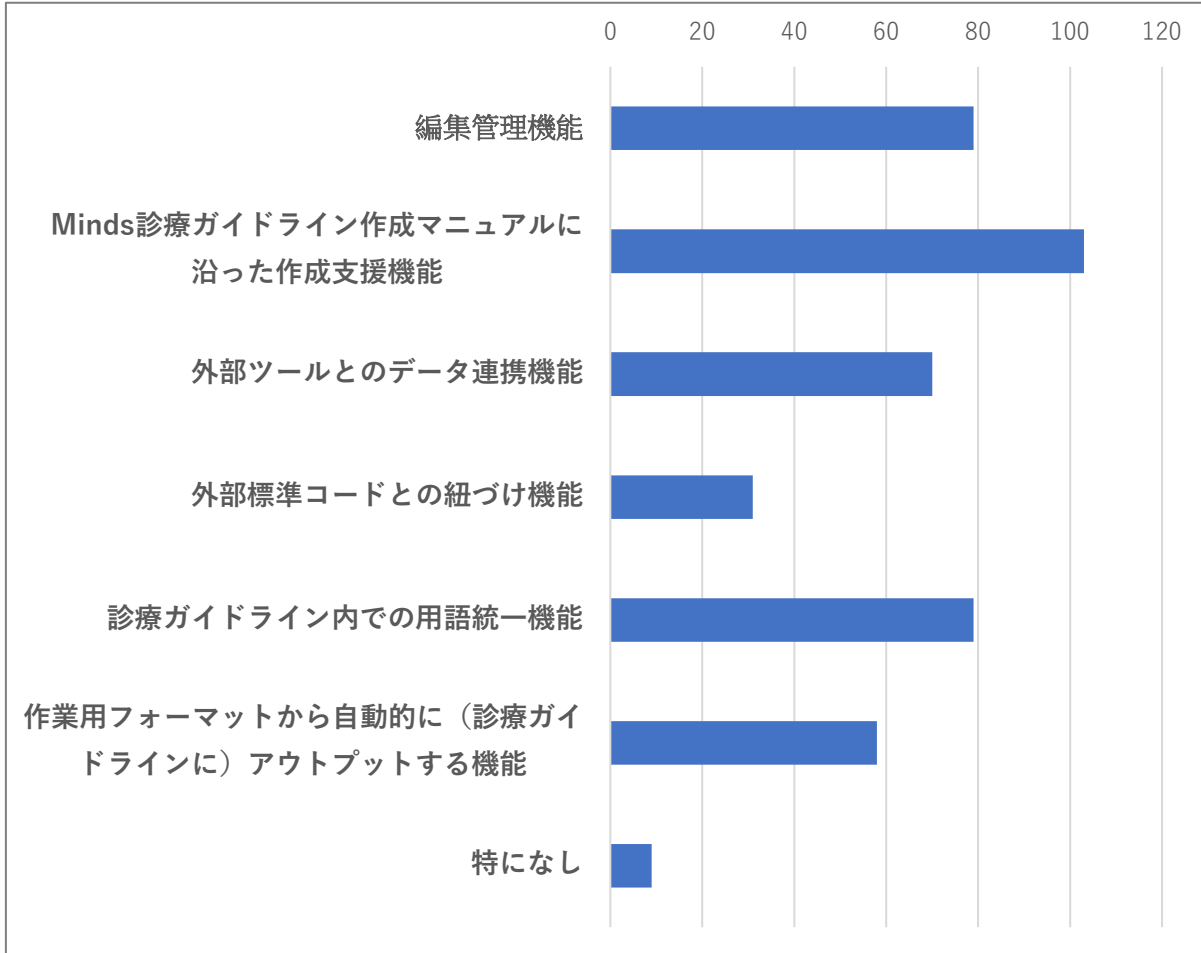


電子的な作成支援ツールを 使用していない理由（人） 複数回答

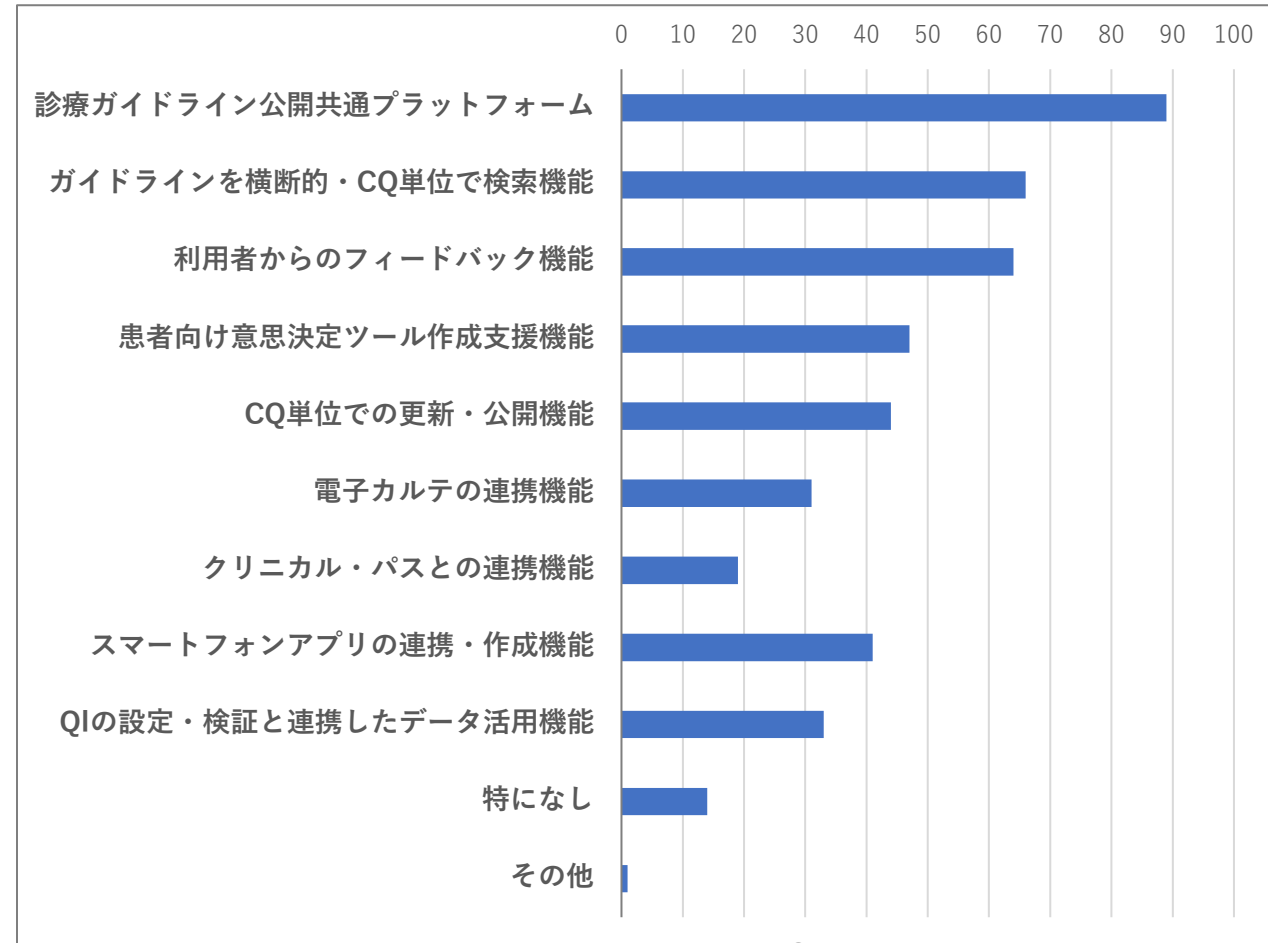


将来的に、診療ガイドラインの作成・更新・普及の電子的なツールが日本でも普及した際、**ツールに望む機能**

診療ガイドラインの**作成** 機能（人） 複数回答



診療ガイドラインの**公開・普及** 機能（人） 複数回答



将来的に、診療ガイドラインの作成・更新・普及の電子的なツールを日本で普及する際に**望む機能・課題**（自由記述）

望む機能

- AI技術の活用（4件）
 - ・ SRの自動化（3件）
 - ・ CHATGPTなどの大規模言語モデルを介したAI-ベースの医療支援との連携

課題

- 価格・費用（2件）
- 著作権問題・出版が前提となっている慣習の中での出版社との関連性（2件）
- 情報漏洩
- 診療ガイドライン公開のためのツールというのがイメージできない。
- ツール自体のマスターに時間がかかる。電子的なツールを不得意とする作成委員がいると思われる。
- 開発・導入に向けた人的資源、時間
- 仕様を統一することの困難性

留意点

- 最後は人が人に医療を施す点を忘れないこと

Mindsの課題と今後の展望

診療ガイドラインの医療現場での普及・活用促進



- 診療ガイドラインにおけるICT活用の体制整備
- 効率的な診療ガイドライン作成・活用方法の整備
- 診療ガイドラインへの理解と適切な活用方法の普及
- Mindsガイドラインライブラリの利便性向上

ご清聴ありがとうございました

ご質問はこちらまで

公益財団法人日本医療機能評価機構

EBM医療情報部(作成支援担当)

e-mail: minds_gdg_support@jcqhc.or.jp

Minds

<https://minds.jcqhc.or.jp/>

Minds Tokyo

GRADE

Center